

平成 23 年度図書館自己点検・評価報告書

1 理念・目的

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

現状説明

「図書館は、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の学術情報の収集、整理及び提供を行うことにより、広く学術の発展に寄与するとともに、本学の教職員及び学生並びに学校法人東京理科大学の関係者の教育研究に資することを目的とする。」と東京理科大学図書館規程第 2 条に規定されている。

点検・評価

理念・目的は適切であり、特に問題はないと考える。

将来に向けた発展方策

現在の理念・目的を維持していくことで特に問題はないと考える。

根拠資料

東京理科大学図書館規程

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

現状説明

大学構成員・社会への周知・公表の方策については、印刷物およびホームページを利用している。

点検・評価

ホームページの館長の言葉の中に、理念・目的を記載し、さらに東京理科大学図書館規程を掲載することとした。

将来に向けた発展方策

印刷物・ホームページの記載事項の検討および更なる理解しやすさへの改善を図る。

根拠資料

各図書館利用案内

東京理科大学図書館ホームページ

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

現状説明

図書館は、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の学術情報の収集、整理及び提供を行うことにより、広く学術の発展に寄与するとともに、本学の教職員及び学生並びに学校法人東京理科大学の関係者の教育研究に資することを目的とする。」という理念・目的については、大学図書館委員会を定期的に開催し、その適切性を検証している。

点検・評価

これまでも、大学図書館委員会の組織体制は図書館の理念・目的を達成するために、適切に機能してきており、検証の体制としては問題ないと考えている。

将来に向けた発展方策

意思決定機関として大学図書館委員、その諮問機関として地区委員会があり、今後もこの体制で検証する。

根拠資料

東京理科大学図書館規程

2 教育研究組織

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

現状説明

大学図書館委員会委員は(1) 大学図書館長、(2)各地区の図書館長、(3)本学の学長が指名する者 若干人で構成されている。

各地区委員会は各学科 1 名(教養は 1・2 部で 1 名、経営学科は 3 名)で構成されおり、10 の系に分かれ主査・副主査のもとで図書・雑誌の購入の選定を行っている。

点検・評価

意思決定機関として大学図書館委員会が存在し、その諮問機関として地区委員会がある。

本学の特徴として同じ系統の学科が複数存在しているため、図書および雑誌の選定について、学科ごとではなく系ごとに検討していることにより、効率よく検討がされている。

将来に向けた発展方策

現状を維持していくことで特に問題はないと考える。

根拠資料

東京理科大学図書館規程

神楽坂図書館委員会運営細則

野田図書館委員会運営細則

長万部図書館委員会運営細則

久喜図書館委員会運営細則

(2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

現状説明

特に問題はないと考えているため検証は行っていない。

点検・評価

なし

将来に向けた発展方策

大学図書館委員会内に定期的に検証する機会を設ける。

根拠資料

なし

7 教育研究等環境

(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

現状説明

現在環境の整備に関する方針は定めていない。

点検・評価

整備に関しては各地区委員会、大学図書館委員会で検討している。

平成 22 年 10 月に席数 150 席の九段図書室を開室して教育研究環境改善を起こった。

将来に向けた発展方策

大学図書館委員会内に定期的に検証する機会を設ける。

根拠資料

なし

(3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか

現状説明

学生用図書は新刊本およびシラバスを基準に収書し、利用状況の分析により副本の整備を行っている。雑誌については各学科の教員の要望を集計し系ごとに検討することにより重複等の無駄を無くすよう努力している。

ジャーナルについては毎年各地区委員会委員により教員の購読希望を取り纏め、最大の満足が得られるよう選定している。

2 次データベース、リンクリゾルバの整備により、適切なジャーナルへの案内を行い、利用者の便を図っている。

専門職員として全員ではないが司書資格を持つ職員を配置している。

点検・評価

平成 22 年度は図書の貸出しが前年比 7,000 冊（神楽坂）、10,000 冊（野田）増加した。

電子ジャーナルバックファイル等の購入に努め、学内での文献へのアクセス機会が増加した結果(費用÷ダウンロード数=600 円程度)、外部への文献複写依頼件数が減少した。

将来に向けた発展方策

葛飾キャンパス図書館（仮称）も含めた 3 大学全体の学習、学術情報サービスの改善を図る。

根拠資料

15 図書館利用状況